

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

平成20年度新規

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	下水道施設維持管理事業									
1 - 2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	業務維持係		評価票作成者	維持担当係長 蓑手和幸	
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	生活環境			基本施策		下水道		コード	1—2—6
		安全・安心で、うるおいのあるまちづくり			単位施策(中)		公共下水道の促進		コード	1—2—6—1
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(小)		公共下水道の整備		コード	1—2—6—1—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	全市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		公共下水道の維持管理によって都市基盤を適正に保持し、市民の快適空間を確保する。				
1 - 5 事務事業の内容	流域公共下水道区域内の下水道施設の維持管理。下水接続確認申請受付、許可、検査、清算。新規取付管占用関係申請等、指定工事店、責任技術者登録更新									

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識					
	平成18年度											
	平成19年度											
	平成20年度	管清掃、水質検査、機器修理等最低限の維持に努めた。			将来を想定した、効率的な維持管理を実施、公衆衛生の向上に寄与し、あわせて公共用水域の水質保全に役立てる。			最小の経費で、最大の効果をあげ、公衆衛生の向上に寄与し、環境保全を図る。				
	平成21年度	"			"			"				
	平成22年度	限られた財源の中で、管清掃、水質検査、機器修理等最低限の維持に努めた。										
	平成23年度											
	平成24年度											
	平成25年度											
	平成26年度											
	平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	污水管清掃				97.8(km)	195.6(km)	污水管清掃の実施延長					
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	活動実績 a（単位）			0.07(km)	0.67	0.30						
	直接事業費 b（千円）			574	813	798						
	人件費 c（千円）			3,312	3312	3,133						
	合計コスト d（b+c）（千円）			3,886	4,125	3,931						
	単位コスト d / a（千円）			55.5千円 / km	6.1千円 / km	13千円 / km	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 活動実績として、H20の污水管清掃の延長とした。71m/1000m = 0.07 直接事業費は、管清掃委託料を計上し、人件費は、6,624千円 × 2名 × 1/4=3,312千円とした。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績 (km)			0.07	0.74	1.04					
	後期目標値に対する達成度 (%)			0.04	0.38	0.53					

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価				A	A	A					

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度			
	平成19年度			
	平成20年度	現状では最低限の維持管理しかできてないのが実情、計画的な維持管理が必要。	下水道施設ごとに年度計画を作成し、計画的な維持管理を図る。	今年度は責任技術者の更新といった、例年にはない事務があったが皆の協力で何とか終えた。
	平成21年度	〃	〃	〃
	平成22年度	現在は、財源の許す限りの年度計画で最低限の維持管理しかできていない現状だが、先を見据えた、施設維持ができてないので、少しでも計画的な維持管理ができるようにしたい。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度		
	平成19年度		
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		